



**福田貂太郎**  
『噴水 (前橋駅前)』昭和53年  
油彩・カンバス 73・0センチ×91・0センチ  
洋風木造建築の駅舎と噴水が残る、旧前橋駅前の風景です。暖かな木洩れ日が、噴水前で寄り添う男女に優しく降りそそぎます。緑色を塗り重ねて陰影を表現し、陽だまり部分との対比が、郷愁を誘います。

未来への贈りもの  
本市収蔵作品

福田貂太郎さん(本名 長太郎、明治36年—平成3年)は、本市北曲輪町(現・千代田町)に生まれました。桃井尋常小学校を中途退学した後、絵画や文学を独学で学んでいきました。29歳で国画会展に初入選したことを機に画業の道が開け、上京後は絵画制作とともに、本の装丁や挿絵を手掛けるほか、短歌や文章にも才能を発揮しました。

晩年、福田さんは故郷の赤城山をテーマに絵画制作に取り組みます。東京の自宅からしばしば前橋に足を運びましたが、ついには六供町に一室を借りて10年もの間、赤城山とにらめっこして、徹底的に描きました。

本作品は、その間に制作されたものです。昭和2年に建てられ戦災を免れた旧駅舎は、前橋の表玄関として親しまれた存在でした。福田さんは、赤城山だけでなく、市内を象徴するような風景画を残しており、作品からは郷土に対する深い愛情が感じられます。

問い合わせは 文化国際課 ☎090-1000-1000



第62回県書道展で、2,378作品の中から最高賞の山崎種二記念特別賞(山種賞)に輝いた。

「最高賞の山種賞を受賞し、光栄です。これからも頑張っていかなければと、身の引き締まる思いですね」

受賞作は「寒山詩」。唐の高僧・寒山の詩を題材に、その超俗的な世界を表現している。丹念に古墨をすり、長鋒の筆を自由に使い書き流した。

「古墨の味わいを生かし、立体感がうまくなるよう工夫しました。寒山の暮らした山奥の静かな雰囲気を感じてもらえたらうれしいですね」

平成18年まで高校で書道の教師を務めた小倉さん。現在は、自宅で教室を開く傍ら、通信制高校で書道を教えている。県書道協会の理事や書道展の運営委員も務めるなど、多忙な毎日だ。

「これからは協会を通して、もっと多くの人が書道に親しめるような企画も考えていきたいです」

趣味はスポーツ。高校では軟式野球や水泳部の顧問も務めた。

「冬はスキーがやりたくなりますね。でも、しばらくは書道が生活の中心かな」

筆を持つと自然と心が落ち着くという小倉さん。これからも多くの人に書道の楽しさを伝えていってほしい。



第62回県書道展覧会で山種賞  
小倉 正俊さん 64歳  
上新田町

書道の楽しさを伝えていきたい

クローズアップ



学校生活の成果を発表

11月26日・27日に、前橋プラザ元気21でまえばし学校フェスタ2011を開催。市内の小中養護学校と市立前橋高の児童生徒が、日頃学校で行っている文化活動の発表や展示を行いました。児童生徒の生き生きとした発表に、多くの人たちが聞き入っていました。



みんなで楽しく介護予防

11月27日、総合福祉会館で介護予防まつりを開催しました。講演会や介護予防サポーターの活動報告、健康チェックなどを実施。みんなで「ピンシャン! 元気体操」を体験するなど、体を動かしながら楽しく介護予防について学びました。



新進気鋭の芸術がずらり

12月4日、前橋プラザ元気21でアートコンペライブを開催。全国から集まった358作品のうち、1次審査を通過した28作品を審査しました。審査員が作者と語り合いながら講評する中、会場に訪れた人たちは魅力的な作品に目を奪われていました。



議場に響くハーモニー

11月29日、市議会議場で議場コンサートを開催しました。大胡小の4年から6年までの児童43人で結成された、けやき合唱団が、「旅立ちの時」など5曲を披露。議場に響きわたる美しい歌声に、議員や傍聴に訪れた人たちから惜しみない拍手が送られました。